

第2章 実行委員会等の開催状況

- ・第1回拡大実行委員会議事録(2022(令和4)年7月27日(水)9:30~12:30、個別(Zoom))
- ・第2回拡大実行委員会議事録(2022(令和4)年9月5日(水)13:00~16:30、北海道自治労会館第3会議室及び個別(Zoom))
- ・第3回拡大実行委員会議事録(2022(令和4)年10月13日(木)9:00~12:00、個別(Zoom))
- ・第4回拡大実行委員会議事録(2022(令和4)年11月10日(木)13:00~16:30、個別(Zoom))
- ・第5回拡大実行委員会議事録(2022(令和4)年12月22日(木)10:30~12:30、タイガーチョダマテリアル(TCM)会議室及び個別(Zoom))
- ・第6回拡大実行委員会議事録(2023(令和5)年2月2日(木)12:30~14:30、建築会館会議室及び個別(Zoom))
- ・第7回拡大実行委員会議事録(2023(令和5)年2月21日(火)16:00~18:30、タイガーチョダマテリアル(TCM)会議室及び個別(Zoom))
- ・第1回コアメンバー会議(2022(令和4)年11月17日(木)13:00~15:00、個別(Zoom))

2022年度第1回拡大実行委員会議事録

業務名	住宅建設技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2022(令和4)年7月27日(水)9:30 ~ 12:30
開催場所	個別(Zoom 会議)
出席者	実行委員(4):石山祐二、米澤稔、檜府龍雄、青野洋之 支援委員(3):北原英明、白川和司、西川 忠 オブザーバー(2):原口潤也、橋本岳史 事務局(3):吉野利幸、秋田正義、山下容子
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1-1 2022.7.6 検討会活動メモ 7.17 修正 ・資料 1-2 個別事項の進捗状況メモ(1.フィリピン現地調査) ・資料 1-2-1 Border Measures Ministry of Health, Labor and Welfare Government of Japan 厚生労働 ・資料 1-3 個別事項の進捗状況メモ(2.フィリピン要人招へい) ・資料 1-4 個別事項の進捗状況メモ(3.-⑤外壁仕上げ提案資料) ・資料 1-4-1 20220727 フィリピンのペイント事情 ・資料 1-5 個別事項の進捗状況メモ(5.ワークショップの開催) ・資料 1-5-1 draft Invitation Letter HOBEA ・資料 1-6 令和4年度実施体制案(委員名簿)20220706 ・参考資料 1-1 今年度の事務処理等について 20220725

	・参考資料 1-2 令和 4 年度旅費明細フォーマット
区分	内 容
議事事項	<p>《議事内容》</p> <p>1. フィリピン現地調査</p> <p>①活動概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査参加人数:3 名 8 月 14 日(日)～27 日(日)石山、檜府 14 日(日)～23 日(火) 青野 <p>②現地活動内容案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招へいの事前調整 対象機関:ASEP1名、建築主事 2 名(ケソン市、もう 1 市(ダバオ又はセブ)、DPWH2 名、DTI/BPS1名)計 6 名を想定 ・今年度の活動全般 <p>ASEP:RCHB ガイドライン関係文書の検討のオンライン検討会？</p> <p>WS 開催(日程、枠組みなど)</p> <p>NECO:活動の連携、次年度以降の連携の可能性(原口さん了)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関:JICA、フィリピン日本商工会建設部会、東栄住宅 ・パワーコーティング関係:Batangas(マニラから 3 時間程度)の校舎(パイロット施工候補)視察等。場合によっては日帰り視察またはキャンセル ・前回招へい機関等フォローアップ:NHA、PCCI、ジャックビルト(優先度低い:アライド、EEI、スマートメゾンリー) <p>・時間があれば現地ニッペ訪問。壁の汚れ具合観察(藻、かびなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招聘関係機関を中心に ASEP にアポ取り依頼中 ・海外旅行保険:JICA 推奨のものは使えない。北原さんから旅行代理店に保険を準備できるかどうか問い合わせをお願いします ・現地移動の車借上げ(8/15～8/26)を原口さんに依頼。原口さん了 ・新型コロナウイルス感染の状況により、フィリピン現地調査は実施不可能となる可能性あり。今後共要状況注視 <p>2. フィリピン要人招聘</p> <p>①活動概要(案):8 月の現地調査における ASEP、その他機関との調整による</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招聘者:6 名(ASEP、DTI/BPS、主事:2(ケソン市、ダバオ市、セブ市、マニラ市など)、DPWH ・9 泊 10 日(12 月上旬又は 1 月。北海道での実験視察(北総研施設見学:旭川泊)が可能であれば北海道も。そうでなければ、工場、建設現場、既存事例は、首都圏で探す。北総研視察は予算的に難しい。関東一円は CB 工業会に照会する

議事事項	<p>②活動内容案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国交省表敬(帰国前の報告会) ・これまでの活動概要、RCHB ガイドライン概要の説明 ・工法の特長、強靱性、経済性の説明 ・公式化についての議論 ・工場視察(品質管理など。太陽エコブロック? エスビック?(ともに茨城)。あまり自動化が進んでいないところと先端会社があればよいが。タイガーマシン社にも検討を依頼) ・既存建物(UR 住宅、新しいタイプ、建設中の現場) ・中小メーカー対策の経験、品質向上方策(今年度調査の成果の活用。DTI 等) ・設計マニュアル、技術資料などの今年度作成資料の意見交換 ・時間があれば: 塗装の推奨方法 <p>③招聘者の条件など: 2019 年度と同様(添付資料 1-5-1 招聘状案参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール 2022 年 12 月中旬前又は 2023 年 1 月(8 月現地調査で確定) ・新型コロナウイルス: 現在、フィリピンは、日本政府の 3 区分のうち青色(出発時の PCR 試験必要。到着時検査なし。隔離期間無し)。ただし、政府の区分見直しが急に行われる場合に備えて、ワクチン接種証明(3 回。発行者、メーカーに条件あり)所持者に限定(黄色になっても待機不要) ・接收証明書留意事項: 発行者の限定(政府又は公的機関、それと同等)、ワクチンの種類の限定(中国製など不適格)など ・感染時に備えて旅行保険をかけることが必要か(フライトの取り直し、宿泊費など) 																																			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 30%;">滞在していた国・地域の区分</th> <th rowspan="2" style="width: 20%;">有効なワクチン接種証明書</th> <th colspan="3" style="width: 50%;">入国時の検疫措置</th> </tr> <tr> <th style="width: 15%;">出国前検査</th> <th style="width: 15%;">到着時検査</th> <th style="width: 20%;">待機</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;"> 青 </td> <td>問わない</td> <td>全員</td> <td>x</td> <td>x</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">区分</th> <th style="width: 20%;">有効なワクチン接種証明書</th> <th style="width: 10%;">必須</th> <th style="width: 15%;">待機</th> <th style="width: 25%;">措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;"> 米国、英国、他 黄 ベトナム、インド、他 </td> <td>あり</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em;">}</td> <td>x</td> <td>x</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なし</td> <td>○</td> <td>自宅3日間 ※1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;"> 赤 パキスタン、他 </td> <td>あり</td> <td rowspan="2" style="font-size: 2em;">}</td> <td>○</td> <td>自宅3日間 ※1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>なし</td> <td>○</td> <td>施設3日間 ※2</td> </tr> </tbody> </table>	滞在していた国・地域の区分	有効なワクチン接種証明書	入国時の検疫措置			出国前検査	到着時検査	待機	青	問わない	全員	x	x	区分	有効なワクチン接種証明書	必須	待機	措置	米国、英国、他 黄 ベトナム、インド、他	あり	}	x	x		なし	○	自宅3日間 ※1	赤 パキスタン、他	あり	}	○	自宅3日間 ※1		なし	○
滞在していた国・地域の区分	有効なワクチン接種証明書			入国時の検疫措置																																
		出国前検査	到着時検査	待機																																
青	問わない	全員	x	x																																
区分	有効なワクチン接種証明書	必須	待機	措置																																
米国、英国、他 黄 ベトナム、インド、他	あり	}	x	x																																
	なし		○	自宅3日間 ※1																																
赤 パキスタン、他	あり	}	○	自宅3日間 ※1																																
	なし		○	施設3日間 ※2																																

議事事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自費での参加者: 前回同様、4名程度まで認める。条件は、2019年度と同様。 3. 技術基準関係 ①技術解説書作成(25P) <石山、檜府ほか> ・技術基準の裏づけとなる実験などの解説(実験結果、計算結果の基準の背景となっている技術内容の解説) ②設計マニュアル作成(25P) <石山、ほか> ・設計手順(間取から構造壁、壁量計算等 に至る手順)のマニュアル。ASEPと必要性を検討 ・以上①、②は、英文も作成すること。 ③非構造ガイドライン作成(15P) <石山、ほか> ④構造設計事例(15P×2例) <とりまとめ:石山、設計作業:西川ほか> ・魅力的な設計事例(後述)の提案基準による構造設計を行う。意匠設計図は11月末までにもraitたい ⑤外壁仕上げ提案資料(8P) <とりまとめ:檜府、実施:白川、ほか> ・昨年度の本橋レポートを基に、アドバイスを貰いながら、具体的にフィリピン側に説明できる材料・工法の提案を取りまとめる(高品質(富裕層住宅向け)、平均レベル、最低限の品質(低コスト住宅など)の3タイプ。最小限の外壁仕上げの知識を作成(3ページくらい。外壁仕上げの効果(劣化防止/耐久性向上、中性化低減、浸潤防止、外見向上など)、異なるタイプのものの塗り重ねが効果的等)。具体的な事例(フィリピンで入手できる商品など)3タイプを想定 ・活動内容・進捗状況について報告(白川):(資料1-4、1-4-1) 活動目標:フィリピンの材料状況活動等により外壁塗装の選定にかかる考え方を整理し、フィリピン側にプレゼンする資料を作成する。また、WSで、発表する ・進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> 1) ネットにより、現地で販売されている塗料の調査(別添参照) 2) 本橋先生に、日本ペイント、関西ペイントの協力者の紹介を依頼済み ⑥浪江町ブロック住宅図面作成(5枚) <とりまとめ:石山、図面作成作業:> ・ブロック壁内の配筋状態がわかるようなイメージ図(アイソメ図)があるとよい。 ・浪江住宅に使用されたブロックについて関根氏などに問い合わせる(米澤) ⑦経済合理性・地球環境対策関係資料作成(12P) <とりまとめ檜府、前島> ・対外的にアピールしやすいポイントの整理、そのための補完資料作成など 3Dプリンターブロックの形状・施工法検討<とりまとめ:石山、作業:植松> ⑨海外諸国のブロック造の課題調査(5件) <とりまとめ:檜府、コンサルタント> ・2021年度と同様の様式により作業依頼(福永設計。合意済)。昨年度は毛利設計。今年度はほかの国を対象に実施する。
------	---

議事事項	<p>4. 実験</p> <p>①あと施工アンカー<とりまとめ:石山、実験等作業:植松、橋本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンカー協会は要素の実験が主。アンカー協会の実験と補助事業の実験は資金を含めて明確に切り分けて行った方がよさそう。実験の打ち合わせを進めている <p>②ブロック壁部材実験<とりまとめ:石山、実験計画・実施:植松、米澤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリズム試験、ダイアゴナル実験を実施。昨年度の水平加力試験体からプリズム試験体、ダイアゴナル試験体を作成し対比させる <p>③魅力的な設計事例(2件)<とりまとめ:吉野、石山 設計作業: ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計作業:依頼先候補(株)ねこ(NECO)。檜府からコンタクトする。 ・後日打合せ。設計事例は低所得者と中間層向けの2件。構造計算は提案方法による。(株)ねこ(福岡の本社)と委託契約する。原口さん了承 <p>④製品規格施行の支援の資料<米澤、吉野、檜府></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本で JIS 定着のためにとってきた政策のレビューを有識者に依頼(JIS 製品の PNS 適合見做しの方法の提案作成含む) ・川上先生や工業会に問い合わせしてみる(米澤)。JIS、設計規準、施工などの詳しい方がよいのでは(米澤)。川上先生から了承を頂いた。川上先生は JIS 制定の経緯などを調べられている <p>⑤小規模メーカー支援方策の資料<米澤、吉野、檜府></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JIS 適合実現のためにとってきた政策、支援策のレビューを有識者に依頼 ・フィリピンに適したブロックマシンの提案の検討を進める(青野)。内容:予算、配置図、設備概要など。8月訪問までに作成 ・シンبرانからはブロックマシンの見積依頼があった。ジャックビルドは問い合わせ窓口の照会のみであった ・④と⑤は関連している。北海道は、北海道建材ブロック協会 20年・25年誌の対談記事、ブロック指導所の出版物に参考記録があるかもしれない。本州は、群馬(エスビック柳沢氏?)やブロック工業会でも記録があるかもしれない。米澤が当たる。工業会から資料提供などの協力の了承あり ・④、⑤はフィリピン側への説明を前提としているため、英文も作成する。 <p>5. ワークショップ開催<檜府、吉野(ロジ)></p> <p>①実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体とりまとめ:檜府、事務手続き:HoBEA 事務局 ・建築学会とりまとめ:松崎、時田? ・フィリピン側マネジメント:ASEP <p>②活動概要(案):8月の現地調査における ASEP との協議で枠組を確定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の共催
------	---

議事事項	<p>日本側:HoBEA、建築学会地震防災国際協力小委員会、全国建築コンクリートブロック工業会？</p> <p>フィリピン側:ASEP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度は、2 部構成で、コンクリートブロック関係は第 2 部(約 2 時間)のため、プロジェクト概要紹介中心で、基準自体の説明など、フィリピンでの活用に向けての内容が不十分 → 今年度は、フィリピンの専門家などを主要な対象として、基準の説明、活用へ向けての説明などを中心 ・日本側参加者のため、日英の同時通訳を行う ・開催マネージ:ASEP 中心(詳細を、2021 年度の経験をベースに検討。(案)学会からの申込:有料、学会サイトより。申込者リストを、ASEP 側に一括して連絡して、ASEP からリンクを個人に送信。ASEP より、英語のリンクが送られてくる旨の連絡を予め、申込者に伝える。当日、開始前に、リンクによる接続を確認(2021 年度は途中でリンクの変更があったが、それに比べるとシンプルになる) ・日時(案):2023 年 2 月 20(月)、21(火)、22(水)のいずれかの、日本時間 14-18 時(フィリピン時間 13-17 時) ・スケジュール:2022 年 8 月現地調査で、ASEP と枠組みの合意。その後、メール等で詳細を固める。2023 年 2 月下旬に開催 <p>③必要経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築学会(参加料から支出):会場費(建築会館ホール)、資料印刷代(資料 ppt は英文) ・HoBEA:講演者等の旅費、同時通訳、サテライト会場?(北海道、沖縄)(予算執行状況により、日本からのコンタクトパーソンのフィリピン派遣を検討) ・ASEP:会場マネジメント委託、フィリピン会場経費(設置する場合) <p>6. その他</p> <p>①事務連絡(詳細は参考資料 1-1、1-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 月 22 日交付決定通知あり。当日を以って予算執行可となる。 ・旅費関係:領収書等の保管。領収書の宛先は原則個人名とし、所属会社名は不可 <p>②次回実行委員会予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年 9 月 5 日(月)13:30~16:30 ・札幌自治労会館会議室及個別 ZOOM <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---

2022 年度第 2 回拡大実行委員会議事録

業務名	住宅建設技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2022(令和 4)年 9 月 5 日(水)13:00 ~ 16:30
開催場所	北海道自治労会館第 3 会議室及び個別(Zoom)
出席者	実行委員(4):石山祐二、米澤稔、檜府龍雄、青野洋之 支援委員(5):北原英明、白川和司、石井宏和、植松武是、前島彩子 オブザーバー(2):橋本岳史、石川茉佑香 事務局(3):吉野利幸、秋田正義、山下容子
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1__2022.8.28 調査報告 ・資料 2-2__個別事項の進捗状況メモ(1.フィリピン現地調査) ・資料 2-3__個別事項の進捗状況メモ(2.フィリピン要人招へい) ・資料 2-4__個別事項の進捗状況メモ(3-⑤外壁仕上げ提案資料) ・資料 2-5__個別事項の進捗状況メモ(3-⑥浪江町ブロック住宅 Cad 図面作成) ・資料 2-6__個別事項の進捗状況メモ(5.ワークショップの開催) ・資料 2-7__招聘日程素案 ・資料 2-8__招へい旅費見積書 ・資料 2-9__通訳見積関係(サイマル・竹内)_最新 ・資料 2-10__東京の貸切バス【たびの足】 ・資料 2-11__Zoom ミーティングやウェビナーでの同時通訳機能_ NEC ネットエスアイ ・資料 2-12__三井ガーデンホテル上野 -銀座プレミア
区分	内 容
議事事項	<p>《議事内容》</p> <p>1. フィリピン現地調査の概要の報告</p> <p>①実施期間 2022 年 8 月 14-27 日(早期帰国、新型コロナウイルスによる帰国延期あり)</p> <p>②参加者 8 月 14~9 月 4 日石山(新型コロナウイルス感染隔離により帰国が延期) 14~27 日 檜府 14~23 日 青野</p> <p>③活動概要 (1)本年度招聘の調整 ・ASEP との協議により、招聘者について、以下の通り合意。それぞれの機関と協</p>

議事事項	<p>議を行い、原則、合意を取り付けた(招へい7名、自費参加2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> －ASEP:1名(自費での参加2名を検討中(想定:Ariel, Ison, Juanito Cunanan)) －DPWH:設計局(BOD Bureau of Design)、国家建築基準整備事務所(NBCDO National Building Code Development Office)から各1名、合計名 －NHA:1名 国家住宅局 －建築主事(BO Building Official):ケソン市、セブ市、ダバオ市、マニラ市などから合計3名 <ul style="list-style-type: none"> ・日程:暫定で、2023年1月11日～20日と設定(詳細日程案資料2-7による) ・日本への受け入れ:現行(本日時点)グループツアーのみ。今回の招聘がグループツアーに該当するかどうかの確認が必要 <p>－日本での現地視察は関東圏内での実施を予定し、視察先候補の選定についてはJCBA 柳澤会長、太陽エコブロックス社へも協力を依頼する。</p> <p>－宿泊ホテルは、関東圏内視察、都内での活動が中心となることから都内とし、利便性を考慮して上野駅近辺で検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス関係:フィリピンでは、新型コロナウイルス予防接種について、ほとんどの国民が、2回の中国製ワクチンの接種をしており、日本入国時に有効な接種証明取得のためには、1回又は2回の追加接種が必要であることが判明。参加者選定の条件として、接種証明の取得できない者は、日本政府によるフィリピンの区分が変更となった場合には、招聘がキャンセルされることを明示することとした <p>(2)技術ガイドラインの検討関係のオンライン会議と今後の広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度作成のガイドライン案の追加的な検討、技術的な説明文書、設計事例、非構造壁のガイドライン案などの検討のための定例オンラインを開催。下記の日程で合意 ・9月12日(月)午後3時(日本時間) 10月10日(月・祝)午後2時(日本時間) 11月14日(月)午後2時(日本時間) 12月12日(月)午後2時(日本時間) <p>*参考:ガイドライン案の制度化の想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASEP内の検討委員会は設立済み ・制度化についてのイソン氏の案では、NSCPとは別のガイドラインとして作成し、それに対して、DPWHから、NSCPと同様に、参考基準とする旨のレターを貰うこと(endorseと表現)を想定。その手続きは、あまり時間はかからないとのこと(8/15打ち合わせ時の説明と異なる)。 ・DPWHの窓口は、NBCDO(National Building Code Development Office)。8/26打ち合わせ時に、ASEPからendorseの依頼をすることを想定している旨、説
------	---

議事事項	<p>明したが特に反応はなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できればガイドラインを年内に固め、その印刷を行い、2/22 の WS において配布するようにする <p>* 設計事例の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低所得層向け、中所得層向けは、建築設計を NECO に作成依頼(11 月末まで)。それを受けて、西川委員が構造設計を行う ・低所得層向け:NHA にアドバイスを貰う ・中所得層向け;NECO の提案による ・高所得層向け:日系デベロッパーの建築設計について試行設計を行う <p>* 今後の広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日系企業で協力いただける可能性のある企業を確認 ・JICA の企業海外展開支援事業の内容が 2022 年度から大幅に改正(JICA が分野別に契約している企業が実施。提案企業は、そこへの指示)。フィリピン事務所は、本件の申請に前向き ・フィリピブロックメーカーは、フィリピンでの CHB マーケットの拡大予想の下、製造能力拡充に意欲。DTI/BPS による製品規格の施行による方法の方が効果的との考え <p>一面談した上記有力ブロックメーカーは、最近日本のマシンメーカーよりモールドを購入。日本製の中古又は新品のブロックマシンの導入を検討(他メーカーとの比較)</p> <p>(3) 本年度のワークショップ(成果報告会を兼ねる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年 2 月 22 日(水)午前 9 時 受付開始 <li style="padding-left: 40px;">午前 10 時—午後1時 セッション <li style="padding-left: 40px;">午後1-2時 休憩 <li style="padding-left: 40px;">午後2-5時 セッション <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン側、日本側ともにハイブリッド ・フィリピン側: 予算制約上主要メンバー 50 名のみが会場で参加(それ以外はオンライン。会場費は 1,400 ペソ/人x50 名=70, 000 ペソ=約 17 万円。 ・日本側: 建築会館会議室 4 室(事務局・発表者、同時通訳者、日本語放映室(20 名くらい?)、英語放映室(20 名くらい? 少なければ日本語放映に切り替え)) ・Zoom 会議の運営: フィリピン側: 技術的な面については会員、事務局が実施(会議の進行などは外部人材に依頼) ・次第の第 1 次案: イソン氏が作成(できるだけフィリピン側中心の内容とする) <p>(4) CHB 製品規格関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年 6 月 1 日に規格の施行の命令文が発出。Load bearing は 12 カ月、
------	---

議事事項	<p>Non-load bearing は 24 カ月の猶予期間(Transitory period)の後、規格外の製造、販売が禁止される(同文書のコピーを受領。ウェブサイトからダウンロード可能とのこと。檜府委員がダウンロードし、関係者に共有済。)</p> <p>一ナショナルニューズペーパー(全国紙)に掲載されてから 15 日後に発効するとされていて、BPS/DTI の H O だと、7 月 4 に発行されたと書いていたので、今は、すでに発効されていると考えられる。(白川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猶予期間中にキャパシティ開発の活動を行い、メーカーが規格適合の製品を作れるようにする。補助、融資などの助成措置は考えていない。日本のメーカーのレベル向上の取り組みについて、関心を示す。 ・零細規模メーカーは、必ずしも零細資本ではなく、一定レベルの資本家が複数のプラントを作り、労働者に作らせているという情報あり。 <p>(5) 塗料関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PPT により、何を重視するか観点に即した、下塗り、中塗り、上塗りなどの組み合わせの製品候補などを含めた説明(PPT 入手) ・流通経路:95%が小売店舗。その内 80%が建材店、15%は大規模店舗。(購入者は、ペインター(塗装職人)が多い)5%が、ゼネコンなどの業者への納入 ・塗料の選定の一般的な流れ:店員が購入者の希望(色、艶のタイプなど)を聞き、次いでどういう性能を重視するかを聞き、それにあった製品を推奨 ・店員向けの講習会を実施している <p>一用途に合った塗料の選択は店員の知識次第というのが実情らしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロックの場合には、モルタル塗りをしてからの塗装がほとんど ・フィリピンにおいて、塗料について情報提供などの希望があればできるだけ対応をする <p>2. 個々の活動進捗状況報告</p> <p>①フィリピン要人招聘について檜府委員より説明(資料 2-3, 2-7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要については資料 2-1 で説明の通りであるが、個別検討事項について説明 *活動概要(案):8 月の現地調査において、枠組み、日程、招聘者案などを固めた。(詳細は、別紙、フィリピン調査報告書参照) ・招聘者:7 名(ASEP、建築主事:3(ケソン市、ダバオ市、セブ市、マニラ市などから)、DPWH(設計局と建築基準整備事務局):2、NHA:1) ・9 泊 10 日(暫定で、2022 年 1 月 11~20 日) *招聘者の条件など:2019 年度と同様(別紙の招聘状案参照) ・新型コロナウイルス予防接種証明取得、海外旅行保険を推奨 *自費での参加者: ・ASEP が、2 名の参加を検討中。条件は、2019 年度と同様(フライト、ホテルは自分で予約)
------	---

議事事項	<p>一日程について:HoBEA から 2 名 x 4 泊 5 日の随行で予算組をしているが、全工程の随行が必要か、要検討</p> <p>—基本都内宿泊として、バスによる 1 泊 2 日の郊外視察は運転手の宿泊費負担あり。現行案では、視察を分散させているが、バス借り上げ費用からは集約が望ましい</p> <p>—上記踏まえて現素案を固めていく</p> <p>—関東圏での視察先は太陽エコブロックスへ立案を依頼する</p> <p>②ワークショップ開催について檜府委員より説明(資料 2-6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動概要(案):8 月の現地調査により、2023 年 2 月 22 日に設定 ・下記の共催 <p>日本側:HoBEA、建築学会地震防災国際協力小委員会、全国建築コンクリートブロック工業会?</p> <p>フィリピン側:ASEP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度は、2 部構成で、コンクリートブロック関係は第 2 部(約 2 時間)のため、プロジェクト概要紹介中心で、基準自体の説明など、フィリピンでの活用に向けての内容が不十分 → 今年度は、フィリピンの専門家などを主要な対象として、基準の説明、活用へ向けての説明などを中心(午前 3 時間、午後 3 時間の予定) ・日本側参加者のため、日英の同時通訳を行う ・開催マネージ:ASEP 中心(詳細を、2021 年度の経験をベースに検討。 <p>日時(案):2023 年 2 月 22(水)、日本時間 10-13 時、14-17 時(フィリピン時間 9-12、13-16 時) (セッション時間合計 6 時間)</p> <p>会場は、建築会館の会議室 4 室により実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール <p>当日、RCHB ガイドラインの印刷版を配布を予定。そのために、年内に内容確定を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面の実施事項 <p>同時通訳者の選定、オンラインでの実施方法の検討</p> <p>建築学会会議室の機器の確認</p> <p>ASEP との調整</p> <p>③外壁塗装選定にかかる提案について白川委員より説明(資料 2-4)</p> <p>前回以降の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ペイント技術本部建設塗料グループ技術グループの角田氏から、国内のペイント技術事情、下地にかかる見解について、ヒヤリング(0803) ・檜府、石山による、日本ペイントフィリピン現地法人で、フィリピン国のペイントに関する状況ヒヤリング(0823)
------	--

<p>議事事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、ASEP に対しては一度、案を投げる程度で、一方通行で良いのではないか) ・前回以降の情報収集を踏まえたフィリピン側への提案の方針案は、下記のように考えたいが、どうか ・ペイントの種類については、日本ペイントが販売している程度の種類で考える ・ペイント下地のモルタルについて、提案できないか(従来型モルタルぬりで、モルタル配合を考える場合。(1回塗り仕上げ、2 回塗り仕上げなど?)、ポリマーセメントモルタルの使用により薄塗り仕上げの提案、下地調整材(フィーラー)による下地施工の提案等) ・フィリピンの現状の材料の中で行う提案と、現在フィリピンにはないが、日本だとかいような材料でやっている、というような提案とを行ってはどうか、と考えている <p>一提案方針に対しては特に異論は出ず</p> <p>④浪江町ブロック住宅 Cad,図面作成について吉野委員から説明(資料 2-5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浪江町ブロック住宅図面(5 枚)について、不明瞭な古い図面をもとにデジタル化し、フィリピンに提案する補強 CB 造の参考資料にする。ブロック壁内の配筋状態がわかるようなイメージ図(アイソメ図)を新たに追加する。 <p>福島県浪江町請戸地区 補強コンクリートブロック造建物概要(出典: 202110121 ブロック通信ゲラ)</p> <p>構造:補強コンクリートブロック造一部 2 階建て</p> <p>建築面積:101.52 m²</p> <p>延床面積:149.272 m²(1 階 101.52 m²、2 階 47.752 m²)</p> <p>竣工年:昭和 51 年 1 月(工期約 1 年)。</p> <p>建設会社:複陽建設(大工)、貴田建商(打合納材業者)、ブロック職人 2 名</p> <p>ブロック製造会社:スプリット工業</p> <p>使用ブロック:ブロックサイズ 450×150×150mm。写真は隅横タイプユニット、三つ穴、縦横空洞部貫通(コーナー側のえぐり大)、片面割肌模様の化粧有(表面は顔料含有)</p> <p>建設費:約 1,500 万円</p> <p>⑤提案構法について石山委員より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック 15 x 15 x 19(端部・交差部用)の形状と構法 ・コンクリートブロック新ユニット 455(タイプ B,タイプ E)の形状と構法 <p>⑥植松委員より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模 CHB 建築物の基礎工法開発のための実大耐力実験—あと施工アンカー一筋と基礎補強筋の効果— について ・あと施工アンカーとコンクリートブロック空洞部における重ね接手とを併用した固定端部の引き抜き耐力の実験的検証 について
-------------	---

議事事項	<p>⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元小山高専の川上先生に、当活動の委員になっていただく方向で米澤委員より打診したところ、基本的には了解の感触あり。支援委員就任の方向で米澤委員から依頼し、内諾得られれば正式に事務局(吉野)からお願いする ・建物レベル⇒①ワンスパン、②単位面積、③1棟でのコストの比較について前島委員より確認 <p>4. 予算その他について報告(吉野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ同時通訳関連予算／東京の貸し切りバス料金／Zoom やウェビナーでの同時通訳機能／招へい時の都内ホテル料金比較／ダバオ～マニラ～成田の航空運賃 ・日本へ入国できるツアーの形態については、大手旅行者に照会及び今後の政府方針を注視する <p>5. 次回予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会:令和4年9月13日(火)又は14日(水)9:30～で検討。後日連絡(どちらもOKなら13日。) ・ASEPとの月例会議次回:9月12日(月)15:00～ <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--

2022年度第3回拡大実行委員会議事録

業務名	住宅建設技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2022(令和4)年10月13日(木)9:30～12:00
開催場所	個別(Zoom)
出席者	<p>実行委員(4):石山祐二、米澤稔、楢府龍雄、青野洋之</p> <p>支援委員(3):北原英明、白川和司、植松武是</p> <p>オブザーバー(2):橋本岳史、石川茉佑香</p> <p>事務局(3):吉野利幸、秋田正義、山下容子</p>
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3-1__個別事項の進捗状況メモ(2.フィリピン要人招へい) ・資料3-2__個別事項の進捗状況メモ(3-①技術解説書作成) ・資料3-3__個別事項の進捗状況メモ(3-⑤外壁仕上げ提案資料) ・資料3-3-1__外壁仕上げにかかる提案20221008 ・資料3-4__個別事項の進捗状況メモ(3-⑥浪江町ブロック住宅Cad図面作成) ・資料3-5__個別事項の進捗状況メモ(4-④個別事項の進捗状況メモ(製品規格施行の支援の資料))

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3-6__個別事項の進捗状況メモ(4-⑤小規模メーカー支援方策の資料作成) ・参考資料 3-1__商用会議出席等を目的とした短期滞在査証 20221011 ・参考資料 3-2__観光を目的とした短期滞在査証 20221011 ・参考資料 3-3__提出書類に関する留意事項 _ 在フィリピン日本国大使館 20221011 ・参考資料 3-4__招へい者宛作成書類
区分	内 容
議事事項	<p>《議事内容》</p> <p>1. 個別事項の進捗状況について協議(配布資料 3-1～3-6)</p> <p>①檜府委員より、配布資料 3-1 フィリピン要人招へいの懸案事項について報告</p> <p>* 招聘手続きの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招へい予定 7 名のうち、6 名に対して、会長のサイン付き招聘状発送済 ・ケソン市(イソン氏経由)が、宛名の情報が来ず、出せていない <p>—宛名情報については檜府委員より ISON 氏へ催促する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自費参加者:特に招聘状は不要とのこと。 ・BOD/DPWH より、速報。2019 年度と同一の Darren 氏が選ばれる方向 DPWH の政府系建物の標準仕様書への取り込みの可能性の事前検討をしてくるよう依頼済み <p>—DPWH の取り込みの可能性については、ASEP が OK の意思表示をすればそのまま取り入れられる可能性が大きい</p> <p>* 当面の作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フライト、ホテル、空港—ホテルの交通手段の確定と連絡(自費参加者への予約依頼)。ダバオ市参加者のマニラ空港周辺での宿泊予約 <p>—マニラ/成田間のフライト(一部はダバオ/マニラ/成田)と、マニラ周辺のホテルについて事務局吉野よりアジアコミュニケーションズ岩尾氏へ見積依頼する</p> <p>—東京でのホテルは三井ガーデンホテル上野を 7 名(シングル、禁煙、朝食付)で 1 月 11～12 日(2 泊)、13 日(1 泊)、14～19 日(6 泊)で予約済(吉野)</p> <p>—成田空港～上野までのアクセスは、京成スカイライナー(所要時間約 50 分運賃@ ¥2,570 チケット当日買い)が便利。ホテルまでは地下通路で徒歩約 10 分(青野)</p> <p>—10 月中にフライト、ホテル、交通手段を吉野が確定し、檜府から招聘者へ連絡及び自費参加者への予約依頼をする</p> <p>—実行委員が宿泊する場合、招聘者と同じホテルに宿泊しなくてもよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビザ申請に必要な資料の確認、送信(早めに来る BOD/DPWH について試行的に、確認、用意、送信?メールで送信可能かどうかの確認など)

<p>議事事項</p>	<p>—確認を吉野さんをお願いする</p> <p>* 当面の実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本入国時の扱いの確認(上記のうち、入国前の PCR 試験が不要?ビザ発給条件(ツアーのみ→個人も可?くらいか?) ・詳細な日程案の作成 ・視察先の絞り込み、調整 <p>—全体日程決定次第、レンタル会議室(定員 24 名用)、視察用観光バスの予約</p> <p>—関東での視察案を太陽エコブロック石井宏和氏に依頼中。個別の進捗状況メモの協力者欄に石井氏を追加する。</p> <p>②吉野事務局長より参考資料 3-1 から 3-4 について報告。</p> <p>* 商用、会議等への出席を目的とした短期滞在査証について、在フィリピン日本大使館資料に基づき説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本側招へい機関で準備するもの:①招へい理由書 ②会議資料 ③滞在予定表 ④法人登記簿謄本又は団体概要説明書 ⑤身元保証書(渡航費用の全部又は一部を負担する場合) ・身元保証書にはビザ申請人の生年月日が必要だが、Darren 氏の生年月日が不明 ・2名以上の申請人がまとまって同時に申請する場合、申請人名簿が必要となっている。フィリピンでは代理人が申請するので、手続きは問題ないと思われる <p>③今回の提案ガイドラインを適用した構造設計案依頼の件</p> <p>* 青山氏より返事あり。パートナーはおおむね了解しているが、HoBEA のフィリピンでの取り組みについて詳しい資料を求めている。檜府)</p> <ul style="list-style-type: none"> ④石山委員より、資料 3-2 技術解説書作成に関して進捗状況報告 ⑤白川委員より、資料 3-3 外壁仕上げ提案資料について報告 ⑥吉野事務局長より、資料 3-4 浪江町ブロック住宅 Cad 図面作成について報告 <p>—全体概略図に加えて部分拡大図もアイソメトリック図の作成が望ましい</p> <p>⑦米澤委員より、資料 3-5 製品規格施行支援資料について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上先生より、支援委員としてではなく、活動の支援ということで協力頂く了解を得られた。資料 3-6 小規模メーカー支援方策資料作成について、資料中「城山ブロック」は誤記。「大城ブロック」に訂正(米澤) <p>⑧植松委員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案構法の B、E ユニットの 3D コピーの制作状況について報告 ・小規模 CHB の基礎工法開発のための実大実験—あと施工アンカー筋と基礎補強筋の効果についてあと施工アンカーの活用に向けた試験体構想の説明。 ・制作はよねざわ工業へ依頼、実験は同社工場に出向いてを想定。コンクリート強度は 21 を予定
-------------	--

議事事項	<p>2. Jack Bilt 社より、同社の Modular Block System の SEALED-END BLOCK の新形状案とその成形方法について、タイガーマシン社へ照会のあった件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 案:コアプラー装置を設置する案(但し本案は搬送コンベアーの現行仕様も含めてマシンメーカーへの可否の確認が必要) ・2 案:現行マシンのプレス機構によって成形可能な形状に変更する案(但し充填しない空洞部へのモルタルの落下防止用のパーツが必要)があり、タイガース社は第 2 案を推奨する旨回答済。Jack Bilt 社はコアプラー成形の場合のブロックの充填度(強度)にも懸念があり検討中。 <p>3. その他</p> <p>①来年 2 月 22 日の WS のプログラム(発表題材)について、ISON 氏に次回 ASEP ミーティング(11 月 14 日)までに概略案でも送ってほしい。連絡を檜府委員にお願いする)</p> <p>②沖縄で CB 造の直塗装に関する情報はないか(吉野) 一特に情報はない。一般的には気泡などの為、シーラー等で下地処理をしないと外観が悪くなる。(米澤)</p> <p>4. 次回実行委員会予定:11 月 10 日(木)13:30~15:30(Zoom)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---

2022 年度第 4 回拡大実行委員会議事録

業務名	住宅建設技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2022(令和 4)年 11 月 10 日(木)13:30 ~ 16:30
開催場所	個別(Zoom)
出席者	実行委員(4):石山祐二、米澤稔、檜府龍雄、青野洋之 支援委員(3):北原英明、白川和司、西川 忠、植松武是 事務局(1):吉野利幸
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 4-1__個別事項の進捗状況メモ(2.フィリピン要人招へい) ・資料 4-2__個別事項の進捗状況メモ(3-⑥浪江町ブロック住宅 Cad 図面作成) ・資料 4-2-1__浪江ブロック住宅 cad 図面_v1 ・資料 4-3__個別事項の進捗状況メモ(4__③魅力的な設計事例 2 件) ・資料 4-3-1__設計事例図面 ・資料 4-4__個別事項の進捗状況メモ(3-①技術解説書作成) Guideline RCHB202209E

	・資料 4-5__個別事項の進捗状況メモ(3-⑤外壁仕上げにかかる提案) 1110
区分	内 容
議事事項	<p>《議事内容》</p> <p>1. 個別事項の進捗状況について協議(配布資料 4-1～4-5)</p> <p>①(株)ねこの原口氏より資料 4-3 魅力的な設計事例 2 件について説明あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計事例 1 件目:ミドルアッパー向けとして、実際に施主が所有の土地に計画中の件。RC 造、建坪 24～28 m²、価格約 P300 万 ・例示図面は構造計算されていない。1 階と 2 階の構造の整合性等について修正要望内容を西川委員から原口氏へ提出する ・設計事例 2 件目:防火仕切りで仕切られた 3 練の長屋式住宅で進める ・構造計算に必要な設計情報は今年 11 月末、設計図面は 12 月末までに原口氏から提される ・当初の予定では、NHA の設計事例について行うこととしていたが、とりやめる。 ((株)ねこの小規模事例がほぼそれに該当すると思われるため) ・東栄住宅の高級事例は、檜府委員が催促をする ・(構造の)アイソメ図を作成し、招へい者に提示できればよい <p>②石山委員より資料 4-4 技術解説書作成について、進捗状況及びポイントに関して説明あり。</p> <p>③檜府委員より、配布資料 4-1 フィリピン要人招へいの懸案事項について報告</p> <p>* 招聘手続きの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招へい予定 7 名のうち、7 名に対して、会長のサイン付き招聘状発送済。(ケソン 市 10/27 送付) ・自費参加者:特に招聘状は不要とのこと。 ・BOD/DPWH,NBCDO/DPWH、NHA より参加者情報を受信。ビザ申請用の書類を、BOD/DPWH に送信、ビザ申請を依頼。(DPWH の政府系建物の標準仕様書への取り込みの可能性の事前検討をしてくるように依頼済み) ・ASEP、ケソン、ダバオ、マンドラウエからの参加者は、イソン氏へ照会中であるが、11/14 の ASEP ミーティングで確認(檜府) <p>* 自費での参加者:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASEP が 2 名の参加を検討中。条件は、2019 年度とほぼ同様(フライトは自分で予約。ホテルは工事日(1 日)の予約をウェブで出来ないの、HoBEA で予約、チェックイン時に各自で支払い) <p>* 当面の作業:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フライト、ホテル、空港—ホテルの交通手段の確定と連絡(自費参加者への予約依頼)。ダバオ市参加者のマニラ空港周辺での宿泊予約 ・ビザ申請に必要な資料の確認、送信。(早めに来る BOD/DPWH について試

議事事項	<p>行的に、とりあえずメールで送信。原本が必要かどうかを確認中)。(必要があれば郵送)</p> <p>*当面の実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本入国時の扱いの確認(接種証明所持者(中国製が追加)は入国前の PCR 試験が不要。ビザ発給条件(ツアーのみ→個人も可?くらいか?) ・詳細日程案作成等: <ul style="list-style-type: none"> —アジアコミュニケーション航空券予約依頼(正確な氏名確認のためパスポートコピー入手要) —建築、施工現場、ブロック工場の視察先決定。 —レンタル会議室(定員 24 名用)、視察用観光バスの予約、ホテルの予約調整: 三井上野ガーデンホテルズ 11/15 アウト、群馬近くで泊(ホテル予約)、16 日群馬視察 同日 18:00 以降三井上野ガーデンズホテルチェックイン —ホテルの予約変更(1/15OUT、1/16IN)手続きを行う(吉野事務局長) —太陽エコブロックス工場(茨城)視察(1/13)の依頼、群馬県コンクリートブロック事業協同組合への協力依頼を行う(米澤委員) —視察先その他詳細絞り込みの為の Zoom 会議をコアメンバーにて 11/17 日(木) 13:00 より行う。(石井宏和氏、日比野英俊氏に参加を依頼) <p>④白川委員より、資料 3-3 外壁仕上げ提案資料について進捗状況の報告。</p> <p>⑤吉野事務局長より、資料 4-2 浪江町ブロック住宅 Cad 図面作成について進捗状況の報告。</p> <p>⑥米澤委員より、戦後の日本のブロック業界の発展史のまとめについて:北海道に関する詳細資料はあるが、九州は組合の火災で資料が消失したとのことで、入手できない場合には北海道についてのみ作成となる旨報告</p> <p>2. 次回実行委員会予定:12 月 22 日(木)10:00~12:00(Zoom) 東京での会議室については調整中</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---

2022 年度第 5 回拡大実行委員会議事録

業務名	住宅建設技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2022(令和 4)年 12 月 22 日(木)10:30 ~ 12:30
開催場所	個別(Zoom)

出席者	<p>実行委員(4):石山祐二、米澤稔、檜府龍雄、青野洋之 支援委員(3):北原英明、白川和司、植松武是、石井宏和 オブザーバー(1):日比野英俊 事務局(1):吉野利幸、山下容子</p>
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 5-1__第5回個別事項の進捗状況メモ(2__フィリピン要人招へい) ・資料 5-1-1__2022 年度 CHB 招聘日程案 2022.12.21 ・資料 5-1-2__視察詳細修正 ・資料 5-1-3__会議室 ・資料 5-2__個別事項の進捗状況メモ(3__①技術解説書作成) GuidelineRCHB202209E ・資料 5-5__個別事項の進捗状況メモ(3__⑤外壁仕上げ提案資料)1222 ・資料 5-5-1__外壁仕上げにかかる提案 20221121Eng ・資料 5-6__個別事項の進捗状況メモ(3__⑥浪江町ブロック住宅 Cad 図面作成) ・資料 5-6-1__cad 図面(6 枚)20221221 ・資料 5-12__個別事項の進捗状況メモ(4__③魅力的な設計事例(2 件)) ・資料 5-12-1__GF plan - 221129_TownHouseplan(長屋連棟状低価格帯プラン) ・資料 5-15__個別事項の進捗状況メモ 2023.2.22 ワークショップの開催について
区分	内 容
議事事項	<p>《議事内容》</p> <p>1. 個別事項の進捗状況について協議(配布資料 4-1~4-5)</p> <p>①(檜府委員より資料 5-1 2__フィリピン要人招へいについて報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程表詳細説明及び以下の事項を補足説明。 ・13 日午後ホテルへ帰着後、ISON 氏と石山、檜府委員で 20~30 分程度オンラインで議論してきたガイドラインの詰めを行う予定。希望者参加 OK。ISON 氏は 17 日(火)に離日予定。 ・18 日午後のミーティングで、JICA の支援で静岡のメーカーが取り組んでいるパワーコーティング(塗装により補強効果を上げる工法)の説明をもらう(20 分)。 ・19 日午後の国土交通省表敬訪問に、全国建築コンクリートブロック工業会へしかるべき人の参加の声掛けをしてはどうか。(米澤委員にも検討をお願いしたい。) ・国土交通省訪問(1 時間程度)後に想定していた建築学会災害委員会地震防災海外協力小委員会との意見交換は、関係者相談の結果特に必要なしで、実施しないことに決定。 <p>②青野より資料 5-1-2 視察日程、内容について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察先、駐車場、昼食場所などについて説明 ・13 日:10:30 太陽エコブロックス(株)つくば工場視察。東京のホテルより貸し切り

議事事項	<p>バスにて:フィリピン 8 名、東京ソイル社 2 名、HoBEA 4 名 (14 名)。自力参加:飯田グループホールディングス社:3 名 タイガーマシン社:2 名 以上計 19 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヤホンマイク:不足分は可能であれば手配頂く。(石井さん) ・当日の流れなど、石井氏と青野で別途打合せする。 ・昼食後 14:00 牛久市 牛久シャトー視察 東京泊 ・15 日:午前 11:30 行田市建設現場視察 午後 15:00 富岡製糸場視察 群馬(安中)泊 ・16 日:午前 9:00~群馬県下ブロック造住宅視察 午後 ブロック造住宅など視察 14:00~群馬県コンクリートブロック事業協同組合意見交換 東京泊 ・藤井専務理事にはブロック建築技能士会の状況についてもお話しいただくよう青野から依頼する。 ・視察中の昼食費用:レストラン(2回)はフィリピンの人の分はカンパで対応する。フードコート(関越自動車道サービスエリア内)は各自払いとする。 <p>③檜府委員より資料 5_15 2023.2.22 ワークショップの開催について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> *活動概要(案):8 月の現地調査により、2023 年 2 月 22 日に設定(詳細は、別紙、フィリピン調査報告書参照) ・下記の共催 <p>日本側:HoBEA、建築学会地震防災国際協力小委員会、全国建築コンクリートブロック工業会。工業会へは共催について依頼済(米澤委員)</p> <p>フィリピン側:ASEP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度は、2 部構成で、コンクリートブロック関係は第 2 部(約 2 時間)のため、プロジェクト概要紹介中心で、基準自体の説明など、フィリピンでの活用に向けての内容が不十分 → 今年度は、フィリピンの専門家などを主要な対象として、基準の説明、活用へ向けての説明などを中心(午前 3 時間、午後 3 時間の予定) ・日本側参加者のため、日英の同時通訳を行う ・開催マネージ:ASEP 中心(詳細を、2021 年度の経験をベースに検討。) <p>(案)学会からの申込:有料、学会サイトより。申込者リストを、ASEP 側に一括して連絡して、ASEP からリンクを個々人に送信。ASEP より、英語のリンクが送られてくる旨の連絡を予め、申込者に伝える。当日、開始前に、リンクによる接続を確認(2021 年度は第 1 部から第 2 部への移行の際にリンクの変更があったが、それに比べるとシンプルになる))</p> <ul style="list-style-type: none"> *日時(案):2023 年 2 月 22(水)、日本時間 10-13 時、14-17 時(フィリピン時間 9-12、13-16 時) (セッション時間合計 6 時間) <p>会場は、建築会館の会議室 4 室により実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> *スケジュール
------	---

<p>議事事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当日、RCHB ガイドラインの印刷版を配布を予定。そのために、年内に内容確定を行なう。 ・当日配布資料を作成、配布(会場参加者。オンライン参加者へは原則として事前に郵送。間に合わない場合には PDF を事前送信、追って郵送。フィリピン側参加者へは PDF を配布)。 * 必要経費 ・建築学会(参加料から支出):資料印刷代他 ・HoBEA:講演者等の旅費、同時通訳、フィリピンの会場経費(50名程度。会場費)。(サテライト会場は今回中止し、日本からのコンタクトパーソンのフィリピン派遣も行わないこととする) ・ASEP:会場マネージメント委託、(フィリピン会場経費(設置する場合)) * 備考 当面の実施事項(2022年9月14日追記含む) ・建築学会に対する実施計画書提出、了解済 ・同時通訳者の選定、オンラインでの実施方法の検討(通訳業者と調整、同時通訳はよく行われているとのこと) ・建築学会会議室の機器の確認のため、フィリピン側との接続リハーサル(所要時間:30分程度)を実施する。 予定日:第一希望 2月2日(木)午前 第2希望 2月3日(金)午前 第3希望 2月20日(月)午後でフィリピン側へ打診中。 ・同時通訳者(PC持参)の参加(自宅参加?)を確認する(事務局吉野) ・下記予約済(各室インターネットケーブルの接続は可能。テレビモニタも設置) プレゼンター、事務局控室:304室(22名収容) 同時通訳者:305室(16名) 会場参加者用部屋(日本語音声):できるだけ大きな部屋を希望:301+302室(16+16名) 会場参加者用部屋(英語音声):308室(28名) ・ASEPとの調整(次第、発表者など) * 2022年8月ASEPとの合意事項 2023年2月22日(水)午前9時 受付開始(日本時間) <li style="padding-left: 40px;">午前10時—午後1時 セッション <li style="padding-left: 40px;">午後1-2時 休憩 <li style="padding-left: 40px;">午後2-5時 セッション ・フィリピン側、日本側ともにハイブリッド ・フィリピン側:主要メンバー50名が会場に参加(それ以外はオンライン。予算制約上、会場費込みで、2,000ペソ/人x50名=100,000ペソ=約25万円。)
-------------	---

議事事項

- ・日本側:建築会館会議室 4 室(事務局・発表者、同時通訳者、日本語放映室(20 名くらい?)、英語放映室(20 名くらい? 少なければ日本語放映に切り替え))
- ・Zoom 会議の運営:フィリピン側:技術的な面については会員、事務局が実施(会議の進行などは外部人材に依頼)。
- ・次第の第 1 次案:イソン氏の作成案(下表左欄)に対して、下表中央欄の日本側コメントを送った(黄色)。基本的に ASEP も同意。(できるだけフィリピン側中心の内容とする)調整中。
(次ページ表参照)

Technical Workshop on Guideline on RCHB Design and Construction			
Time(PST)	duration	Proposal by ASEP	comments by HoBEA
			add Opening Session for 30 min.
9:00	9:30	30 1)Production and Specification of CHB in Japan and the Philippines	Overview and Features of RCHB Construction in Japan: Narafu on line 榎府:日本のCHB技術の特徴(イモ目地、部分充填など)、それによるメリット(経済性、合理的な施工など) 施工技術の重要性 災害に対する強靱性
9:30	10:15	45 2)Reinforced Concrete Hollow Block Construction In Japan and the Philippines	Current Production and Construction of CHB in the Philippines (manufacturer,workers, structural code, etc.) : ASEP
10:15	10:30	15 coffee break	
10:30	11:30	60 3) Analysis of RCHB Houses and Calculation of RCHB Wall Design Capacities	including recommendation for designing learning from design study; Ishiyama on line 石山 設計事例を含む(設計上の留意点: バランス、上下階、壁量計算)
11:30	12:00	30 Question and Answer Session	
12:00	13:00	60 Lunch break	
13:00	14:00	90 4) Proposed HoBEA/ASP Guideline on RCHB Guidelines on RCHB Design and Construction	ASEP ASEP(ガイドラインの各条文の説明) 設計事例をこちらに入れてもらうのも一案(短へい時の説明に基づき確定?)
14:30	15:00	30 Question and Answer Session	
15:00	15:15	15 coffee break	
15:15	16:00	45 5) Closing session	comments by BOs, NECCO/DPWH and NHA should be included
		420	

- ・招聘:2023 年 1 月 11 日ー20 日 7 名+自費 1 名
- ・1/19 午後の学会 WS 関係者と ASEP との顔合わせは行わないことに決定。
- ・フィリピン側へ依頼中:
オープニングセッション(30 分程度、両国国歌演奏セレモニー含む)及びクロージングセッションでのコメント、4 名のプレゼンテーション
- ②吉野事務局長より
- ・国交省への報告書作成について:
WS 以外の活動報告書は 2 月初めから、可能な人は年明けから順次着手されたい。
報告書様式(例年通り)を事務局から提示する。目次の作成は榎府委員にお願いする。
- ・招聘時の都内貸会議室(TKP 上野駅前ビジネスセンター)について
カンファレンスルーム 7A(定員 30 名) 下記日程で予約済
1 月 12 日(木)、17 日(火)、18 日(水) 9:00~16:00

議事事項	<p style="text-align: center;">1月19日(木) 9:00~12:00</p> <p>—フィリピン側参加不明者2名の最終結果を12月27日期限内で回答を催促する(檜府委員)—</p> <p>③石山委員より資料5__2技術解説書 ガイドラインについて説明</p> <p>④白川委員より資料5__5__1 外壁仕上げに架かる提案について説明</p> <p>⑤吉野委員より報告</p> <p>・浪江町ブロック住宅のCad 図面及びアイソメトリック図の進捗状況について説明</p> <p>—国交省への報告について関根氏の了解あり(石山委員)—</p> <p>・NECOの魅力的な設計事例、長屋連棟状低価格住宅図面について</p> <p>⑥檜府委員より報告:</p> <p>・アフリカのブロック造のレポート受け取ったが、ソリッドブロックと ホローブロックの区別の記述が不明確であった為、1月中には修正分の提出をお願い中。</p> <p>2. その他</p> <p>・WSは各委員にはできる限り会場参加をお願いする。</p> <p>・次回実行委員会:2月2又は3日の接続テスト日程に絡めて午前中に予定する。詳細は接続日程決定後に連絡。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---

2022年度第6回拡大実行委員会議事録(案)

業務名	住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2023(令和5)年2月2日(木)12:30 ~14:30
開催場所	建築会館308会議室及び個別(Zoom)
出席者	<p>実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤 稔、青野洋之</p> <p>支援委員(2):北原英明、白川和司</p> <p>専門委員(1):松崎志津子</p> <p>オブザーバー(1):橋本岳史</p> <p>学会小委員会委員(1):時田伸二</p> <p>事務局(3):吉野利幸、秋田正義、山下容子 (注):()は欠席者</p>
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之
配布資料	<p>・資料6-1__フィリピンのキーパーソンへの招聘の概要(檜府)</p> <p>・資料6-2__ASEPとの検討会</p>
区分	内 容
	<p><議事事項></p> <p>1. 檜府委員より資料6-1__フィリピンのキーパーソンへの招聘の概要に</p>

議事事項	<p>ついて報告。</p> <p>(1) 概要</p> <p>① 期間 2023年1月11日(水) -20日(金)</p> <p>② フィリピンからの参加者6名(うち2名は自費による参加)</p> <p>・招聘者(4名)</p> <table border="0"> <tr> <td>-公共事業道路省(DPWH)建築基準整備室</td> <td>Elena Dias</td> </tr> <tr> <td>同 設計局</td> <td>Darren Apolinar</td> </tr> <tr> <td>-フィリピン構造技術者協会(ASEP)会長</td> <td>Ariel Santos</td> </tr> <tr> <td>-マニラ市建築主事室</td> <td>Juanito Cunanan</td> </tr> </table> <p>・自費での参加(各2名)</p> <table border="0"> <tr> <td>-フィリピン構造技術者協会(ASEP)技術基準担当</td> <td>Ronald Ison</td> </tr> <tr> <td>-実務建築家</td> <td>Christine Iso</td> </tr> </table> <p>③ 本招聘の趣旨、目的、概要</p> <p>・構造基準の作成主体であり、構造技術の指導的な団体であるフィリピン構造技術者協会と協働して、同国での活用のための技術ガイドラインを作成し、それによる技術の普及を図ることとした。これに基づき、2021年度及び2022年度において、定期的なオンライン会議によりガイドライン案を作成した。</p> <p>・これを受けて、今般、フィリピン構造技術者協会のガイドライン案作成の主要メンバーと、その活用の際の指導的立場の者を日本に招聘し、日本の技術、実際の建築事例などの実見による、日本の技術についての理解の深化と、参加者全員での意見交換によるガイドライン案の理解の共通化、公式化の手続き、その活用促進のための方策の検討などを行うことにより、今後のフィリピンにおける安全なコンクリートブロック造技術の普及を図ることを目的として、招聘を行った。</p> <p>(2) 主要な成果</p> <p>① 日本の技術の理解の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽エコブロック株式会社つくば工場の視察による、日本のブロック製造技術、品質管理、表面加工による多様な製品製造の可能性などの理解の実現 ・行田市観光物産館(施工状況視察)、群馬県営住宅団地他群馬県下の各種のブロック造建築事例の視察、及び群馬県ブロック事業協同組合との意見交換等による日本のブロック造技術(特に築後50年でも構造的には問題が無いこと)への理解 ・組積造等の耐震補強技術の事例視察(牛久シャトー、富岡製糸場) <p>② ガイドライン案の理解の共通化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン案の逐条についての説明及び意見交換 ・ガイドライン案に基づく設計事例に即した同案の理解の深化 ・同案のベースとなっている日本の技術の概要、変遷・発展、特性(災害に対する 	-公共事業道路省(DPWH)建築基準整備室	Elena Dias	同 設計局	Darren Apolinar	-フィリピン構造技術者協会(ASEP)会長	Ariel Santos	-マニラ市建築主事室	Juanito Cunanan	-フィリピン構造技術者協会(ASEP)技術基準担当	Ronald Ison	-実務建築家	Christine Iso
-公共事業道路省(DPWH)建築基準整備室	Elena Dias												
同 設計局	Darren Apolinar												
-フィリピン構造技術者協会(ASEP)会長	Ariel Santos												
-マニラ市建築主事室	Juanito Cunanan												
-フィリピン構造技術者協会(ASEP)技術基準担当	Ronald Ison												
-実務建築家	Christine Iso												

議事事項	<p>強靱性、経済性など)などの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同案の工学的妥当性の説明(構造実験の結果概要など) <p>③ ガイドラインのフォーマル化(技術基準としてのオーソライズ、建築許可の際の準拠基準とすることを可能とする手続きなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成主体であるフィリピン構造技術者協会のオーソライズ(技術委員会での検討、承認、理事会での承認)、同協会から公共事業道路省への参照基準化の申請、同省における審査(建築基準整備室が窓口となり、設計局が技術審査を行う)、審査結果の大臣への上申などの手続きを確認した <p>④ 利用促進のための方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年2月22日のワークショップの開催について検討 ・今後の広報普及活動に関する意見交換 <p>⑤ 国土交通省表敬訪問と意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道建築技術協会より、プロジェクトの概要、これまでの活動、今回の招聘の目的と概要などを説明した。 ・フィリピン招聘者から、日本のブロック造技術のフィリピンにおける有効性と普及への期待、今後の公式化・社会実装への各組織の立場からの協力の意向が示されたが、併せて今回の招聘の深い意義と謝意、更に今後の技術の普及へ向けての継続的な支援の要望がなされた。 ・国土交通省からは、制度の普及のための活動について、近年の建築基準等の変更に関する同省の取り組みの紹介と、その重要性についての説明があり、意見交換を行った。 <p>⑥ この度の招聘は、視察における各訪問先の行き届いた準備、対応を含め、関係者の尽力で全般的に非常にスムーズに実施できた。</p> <p>2. 檜府委員より資料6-2__ASEPとの検討会について報告 ASEPとの検討会(関係者限り)</p> <p>① 日時:2023年1月13日(金)18:00-19:30</p> <p>② 場所:椿屋珈琲(上野)</p> <p>③ 参加者:ASEP:会長 Ariel Santos、技術基準担当(前会長)Ronald Ison マニラ市:建築主事室エンジニア Juanito Cunanan 実行委員:石山祐二、檜府龍雄</p> <p>(1) 議論の要旨</p> <p>① 2023.2.22ワークショップの実施枠組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本側:会場(AIJ 会議室)とオンラインの併用。今年度は同時通訳を入れる。接続が昨年度と同様の、各人が別のリンクで参加する方式の場合、一般のオンライン参加者以外に、事務局側で、6つのリンクが必要(講演者2名、全体モニタリング、同時通訳、会場参加者(英語)、会場参加者(日本語))。
------	---

議事事項	<p>—昨年度の日本側オンライン参加者は、ASEP からの英語メールをジャンクメール と思いこみ、当日事務局に接続できないと連絡してきた者が多くあった。今年度 は、他の方法(日本側は同一のリンクで多くの者が接続できる方式とし、日本側 事務局でリンクをもらい、事務局関係者、学会からの個々の申込者にそれを送る 方式などの可能性を考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン側:会場に 50 名程度、それ以外をオンラインとする併用を想定。想定参 加者は 70 名程度(昨年度は、3 日間の大規模会議の最終日の午後をワークショ ップに充てたので 300 名以上の参加があった)。 <p>② 接続のリハーサル:本日 2 月 2 日(木)日本時間午後 3 時より実施。 (同時通訳のサイマルインターナショナル事務局立ち合い)</p> <p>③ 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はフィリピン側も作成、配布する。ガイドラインは A5 版の独立した冊子を想 定。印刷発注は 20 日頃を想定。 <p>④ ガイドライン(独立した印刷物)への HoBEA、MLIT などのロゴの掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、ワークショップ用の資料という位置づけであるので、共催者 ASEP と HoBEA とを掲載。ASEP のオーソライズ手続きを経たのちに、作成、配布するもの での扱いは、日本側でも検討する(ASEP のみとし、謝辞で HoBEA の協力につ いて言及が適当か?)。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの内容については特にコメントなどはないが、横筋用の CHB ユニット をどうするかを検討する必要がある。ガイドラインは現在の(案)を ASEP が編集し て(表現などは ASEP に任せることにした)2/22 のセミナーまでに A5 版で準備す る予定となった。 <p>3. 今後の普及のための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な活動は、設計者である技術者への広報。建築主事は、その活動に招待 し、基準の存在を認知してもらうようにする(DPWH に働きかけて、主事に周知し てもらうことも望ましい。ただし、それにより設計者などへ広がることは期待できな い)。そのため、マニラ、ビサヤ、ミンダナオで、地域の指導的エンジニアに協力 してもらいワークショップを開催することが有効(主事などを招待。) ・無料の開催、NSCP 改訂版の説明と一体して有料で行うことも考えられる(日本側 講師は、招聘の形とし、無償(旅費等は HoBEA プロジェクトで負担)で行うことを 想定)。 <p>4. ワークショップへの全国建築コンクリートブロック工業会への参加要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米澤委員から予告済であるが、詳細が決定した現時点で改めて事務局長の会 場参加を要請する。建築学会 HP“催し物”からの申し込み手続き。 <p>5. 個別事項の活動進捗状況について検討</p> <p>(1) 進捗状況の確認(及び対策)が必要な事項</p>
------	--

議事事項	<p>① 経済合理性・地球環境対策関係: 檜府委員から前島先生に確認する</p> <p>② あと施工アンカー実験: 試験体について協議(石山委員、米澤委員)。</p> <p>③ フィリピン製ブロック壁部材実験: 植松先生よりせん断試験は済んでいるとの報告あり。実験の継続の確認要。</p> <p>④ 3D プリンターブロック(縮小試作体)による施工法検討: 植松先生より試験体は一通り製作済と方向あり。実験の継続の確認要</p> <p>6. 吉野事務局長より国土交通省提出の活動報告書について報告:</p> <p>① 第5章5-4として「基準(案)に基づく魅力的なRCBH造住宅設計事例」の追加を予定。</p> <p>② 報告書作成提出スケジュール:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿締切 :3月6日(月) ・編集作業締切:3月13日(月) ・製本発注 :3月14日(火) ・製本納品 :3月16日(木) ・国土交通省送付:3月17日(金)(締切:3月23日) <p>③ 活動報告書提出に伴う HoBEA 平井会長の国土交通省訪問はこの度は見合わせる。</p> <p>7. 次回(第7回)実行委員会予定</p> <p>日時:2月21日(火)16:00~18:00</p> <p>場所:(株)タイガーチヨダマテリアル(TCM)会議室</p> <p>中央区日本橋人形町3-8-2 ミハマビル6階</p> <p>TEL:03-3527-3775</p> <p>https://tigerchiyoda-material.co.jp/company/</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--

2022年度第7回拡大実行委員会議事録

業務名	住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2023(令和5)年2月21日(火)16:00 ~18:30
開催場所	タイガーチヨダマテリアル会議室及び個別(Zoom)
出席者	<p>実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤 稔、青野洋之</p> <p>支援委員(2):北原英明、白川和司</p> <p>オブザーバー(1):橋本岳史</p> <p>事務局(3):吉野利幸、秋田正義、山下容子 (注):()は欠席者</p>
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 青野洋之

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回拡大実行委員会議事次第 ・資料7-1__成果報告書目次案
区分	内 容
議事事項	<p><議事事項></p> <p>1. 本日 15 時から行われた明日のワークショップについての ASEP との最終確認概要を檜府委員から報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本側参加申し込み数は会場 3 名、オンライン 12 名 <p>2. 資料 7-1__成果報告書目次案により、本年度の活動の進捗状況の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> * 章、節の項目立て、タイトルなどは仮り、各執筆者により適宜修正 * 原則、添付した書式で執筆。書式によらない場合でも上下左右の余白は書式に合わせることを。 * 下記目次のうち太字は未出稿(ほかは事務局へ出稿済) <p>第 1 章 活動の概要</p> <p>1. 1 補助事業の内容と活動の概要(申請書記載事項と報告書の対応を含む)</p> <p>1. 2 実施体制</p> <p>第 2 章 実行委員会等の開催状況 (本日の実行委員会議事録を残す)</p> <p>第 3 章 フィリピン現地調査</p> <p>第 4 章 フィリピンのキーパーソンの日本への招へいの概要</p> <p>第 5 章 日本の知見をベースとした技術基準の策定</p> <p>5. 1 活動の背景と概要(定期的なオンライン会議の報告を含む)</p> <p>5. 2 技術基準策定の方針 (対象(構造壁、日本の基準をベースとした工法)、日本の基準との関係など、イントロ的な内容)</p> <p>5. 3 壁式 RCHB の技術基準(案)及び解説 (WS での発表を本項に追加する)</p> <p>5. 4 技術基準(案)に基づく魅力的な RCHB 造住宅設計事例(本項目を追加)</p> <p>5. 5 基準(案)に基づく構造設計事例</p> <p>5. 6 あと施工アンカーの耐力試験</p> <p>5. 7 壁体の強度試験(階高充填の試験体切り出し試験体の実験)</p> <p>5. 8 より合理的なブロックタイプについての縮小試作体による施工性検証(3D プリンター試作関係)</p> <p>5. 9 非構造壁のガイドライン(案))</p> <p>第 6 章 提案工法の活用促進に向けた検討</p> <p>6. 1 技術ガイドラインの公式化、社会実装化の検討</p> <p>6. 2 経済合理性、環境負荷評価などの観点からの検討</p>

<p>議事事項</p>	<p>6.3 ブロックの製品規格の施行及び小規模メーカーの技術向上についての日本の経験とフィリピンへの助言</p> <p>第7章 関連して実施した活動</p> <p>7.1 コンクリートブロック壁面の表面仕上げの検討</p> <p>7.2 浪江町ブロック住宅の Cad 図面</p> <p>7.3 低品質のコンクリートブロック造の課題の広がり</p> <p>第8章 活動報告</p> <p>8.1 日本建築学会大会における成果の発表(学会発表梗概は用意済)</p> <p>8.2 フィリピンとのオンラインワークショップ</p> <p>榎府委員のWSでの発表内容も本項に記載する。石山委員の発表は題目のみ記載し、内容は5.3項に入れる。Jani氏、Ison氏、Ariel氏のPDF(6up)も入れる。</p> <p>第9章 令和4年度活動のまとめと今後の課題(榎府)(広報活動計画を含む)</p> <p>3. 来年度の活動について</p> <p>1月19日の国交省訪問時、ここまで積み上げた成果をさらに形のある実績とするために更に来年度の活動を希望する旨当方の意向を伝えた。明確な回答はないものの当方の希望は国交省へも十分理解頂けたとの感触。今後の問題点は、フィリピン国内でマニラ、ビザヤ、ミンダナオの建築主事の広報活動等を通して、どこまで提案ガイドラインへの理解と賛同を上げられるかによると思われる。(榎府委員)</p> <p>4. 今年度報告書作成スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿締切:令和5年2月28日(火)書きあがったものから随時、吉野事務局長へ提出のこと。 ・国交省への決算報告書提出期限:3月6日(月) ・編集作業:3月1日(月)～13日(月) ・製本発注:3月14日(火) ・納品:3月16日(木) ・国交省へ送付:3月17日(金)(国交省締切3月23日) <p style="text-align: right;">以上</p>
-------------	--

2022 年度第 1 回コアメンバー会議議事録

業務名	住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) (仮称)フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及
開催日時	2022(令和 4)年 11 月 17 日(木)13:00~15:00
開催場所	個別(Zoom)
出席者	実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤 稔、青野洋之 支援委員(1):石井宏和 オブザーバー(1):日比野英俊 事務局(1):吉野利幸
議事録作成者	一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸
配布資料	なし
区分	内 容
議事事項	<p><議事事項></p> <p>1. フィリピン招へい者の視察先について</p> <p>① 太陽エコブロックつくば工場(茨城県常総市杉山1248)の視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察日程:2023 年 1 月 13 日(金)。 ・製造工程を視察するのであれば、工場の稼働状況から午前中が望ましい。 ・ホテルを9時頃出発し、10 時 30 分頃到着。工場見学 1 時間程度と質疑応答などを含め 2 時間程度か。RM 構造用ブロックのほか、化粧ブロックなども見学させていただける。 ・質疑応答場所として会議室を用意していただける(視察者は 13 名)製造しており見学可能。 ・準備資料として、以前、JICA 研修で視察した時に英語版の資料があったと思う(檜府)。当時の担当者に確認してみる(石井)。製造マシンなどの資料やカタログはタイガーマシンで用意できる部分があり、説明要員なども含めた全般的な対応について、タイガーマシンとして後ほど相談させてほしい(青野)。 ・工場内は騒音が激しいので、イヤホンマイクがあったほうが良い。レンタル費用を見積もってみる。費用は補助金で負担できる。 <p>② 群馬県内および近郊の視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程:2023 年 1 月 15 日(日)~16 日(月) ・1 月 15 日中に群馬県に入り、16 日の朝からブロック造建物などの視察を行う。 ・候補としては、 <ol style="list-style-type: none"> 1) 群馬県営公営住宅原市第二(群馬県安中市原市2117、RCB 造 3 階建て(設計:山下和正)) 2) 群馬県安中市遠丸住宅団地(群馬県安中市安中5丁目14-7、1972 年築) 3) ラフィーネ笹澤(群馬県高崎市上小鳥町569、RM 造 5 階建て集合住宅)

議事事項	<p>4) 群馬建材本社(群馬県高崎市上並榎町597、RCB造事務所+隣接地にRCB造3階集合住)</p> <p>5) 群馬県コンクリートブロック事業協同組合(前橋市元総社町二丁目13の2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察先の滞在時間は平均して30分程度とすると、前橋市を含めて視察時間は5時間程度か。それに昼食時間1時間程度、群馬県コンクリートブロック事業協同組合で1時間程度。 ・1980年後半くらい(1983年か?)。群馬建材本社が1990年代。原市第二の空き部屋見学を依頼中。遠丸住宅団地の内部見学は難しい。近くの公社住宅は内部見学の可能性あり。群馬建材隣接の集合住宅は空き部屋があれば見学できると思う。RM造5階建ての共用部分(ブロック表わし)は見学できそう。 ・1)の現場に9時集合とし、前橋市出発を午後4時頃とすると午後6時過ぎにはホテルに戻る。 ・視察先は、安中市、高崎市、前橋市として行程を汲んでいただく。 ・資料:RM造5階建て集合住宅、RCB造3階建て集合住宅の図面はある。遠丸団地の図面は、建築学会梗概に掲載してあるものとほぼ同じ。山下和正の設計建物は探してみる。ブロックを供給したのは群馬建材なので、持っているかもしれない。 ・群馬建材は、以前はブロックを製造していたが現在は製造していない。建材の供給のみ。 ・群馬県内にブロック製造メーカーは5~6社あるが、建築用ブロックを造っているメーカーは少なく、ブロック住宅は皆無に近い。 <p>③ ブロック施工現場の視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック施工現場は群馬県内にはないが埼玉県行田市にある。日比野氏が設計・監理したが、埼玉県の建物なので現場見学は難しいかも。場所は、行田市のさきたま古墳公園の古墳通り沿い(史跡の博物館近く?)でRM造平家建て。1月中旬だと積み工事は終わって内部工事を行っている時期。 ・外から見学は出来るかもしれない。 ・視察するならば日程は15日(日)とし、その後群馬県へ向かう行程とする。 ・15日の宿泊は、視察を効率的に行う意味からも安中市に宿泊することとする。 <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---

